パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会　会報　　２０１７年６月１日　１６５号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第5回パクー放流式特集

挨拶するフランコ前大統領

放流！

放流！

放流！

試練も恵みも大きかった放流式

五月五日、レダ基地において、当会現地法人と国立アスンシオン大学との共催による、第五回パクー放流式典が行われ、約１２０名が参加しました。以下、現場から佐野氏の報告です。

天候の試練　今回ほど準備したことが悉くひっくり返された放流式は今までになかった。今回は、ミリタリー機が二機、五人乗りのセスナ数機でアスンシオンからの招待客が参加を予定。オリンポやバイア・ネグラからの招待客のためにはバス二台をチャーターした。その他にも近隣の村々（トロパンパやマリア・アウシリアドーラなど）から自分の車で来る人が続々と参加する予定で、レダは三百人近くの人々でごった返すと予想された。

しかし五月三日、パラグアイは全土が豪雨に見舞われた。各地域が50ミリを超す雨量で、特にアスンシオンは１００ミリを超過。道路が川のような状態になり、首都のほぼ全域が停電となった。

未舗装道路は全面通行止めとなり、我々のイベントに大きな暗雲が立ちこめた。続く四日が晴天であれば何とか可能かと思われたが、四日も太陽が全く顔を見せない。お昼まで時どき小雨が降る天候で、五日の放流式は断念せざるを得ないのではないかと思われた。チャーターした二台のバスはすぐにキャンセルせざるを得なかった。何故なら、たとえ通行止めが解除されても、五日にオリンポから１７０Km、バイア・ネグラから１３０Km、雨後の悪路をバスが走行することは不可能。陸路参加を予定していた百数十名は来られなくなった。

そして今問題は、空路で来る人だけでも式典ができるのか？ということ。仮に五日の放流式を延期するとしても、ゲストが多いので一人一人に連絡を取るのは非常に困難。しかもトップクラスの人々は多忙なので、予定を変更すれば、参加が極めて困難になる。故に、何とかして五日に実行したい。しかし、我々の滑走路に飛行機が降りられるのか、それが大きな疑問だった。（次面に続く）

第5回パクー放流式　2017年5月5日レダ基地

パクー放流式に集った、来賓、スタッフ、パイロット、他

（一面より続く）昼になってようやく雨が止んだ。太陽は出なかったが風が少しあった。翌日までに何とか滑走路が乾いてくれることを祈るばかりだった。

パイロットの心配　午後にはチャーターした六機のパイロットから順次電話を受ける。滑走路は使える状況なのか、イベントは予定通りするのか？と。ただ、「現在雨が止み、天候が回復していく状況で、明日の天気は快晴との予報なのでもう少し待ってほしい。夕方五時に最終決定を下します」と答えるしかなかった。中田所長は労働者を動員して滑走路に降った水をスポンジで吸い取る作業を始めていた。

全員で放流会場まで歩く。滑走路は乾いている。

午後五時、もし夜間に雨が降らなければ翌日は何とか着陸できるのではないかという状況になった。予報では夜に雨は降らない。それに賭けるしかなかった。各パイロットに連絡した。明日ＯＫだと。しかし、ミリタリー機のキャプテンは容易に信じない。現在の滑走路と空の写真をスマホで撮影して、すぐ送ってほしいとのこと。それを送ったら、次は滑走路の真ん中を車で走ってほしい。そして走った轍の写真とタイヤに着いた泥の写真を要求した。だが今はまだ軟らかい箇所もあって、余り気が乗らない。しかし今晩雨が降らなければ、一晩で相当乾く。彼らが着くのは午前九時過ぎだ。その時は絶対に大丈夫との自信がある。そこで比較的に乾いている所を走って、その写真とタイヤの泥を撮影して送った。彼らはＯＫを出し、翌朝もう一度電話すると言った。

川岸に設営された、放流会場。

放流する魚について説明するマグノ教授。

次の日は晴れ。これで天候の試練は過ぎ去った。

さらなる試練　ところが、予定していた参加者たちの中に、海外出張、国際イベント、持病の悪化、親しい人の不幸など、急な事情で参加できなくなった人が続出した。救いは中井氏が招待状を出して、パラグアイのＵＰＦ会長でもあるエバリスト氏が毎日電話で連絡を取ってくれた、フランコ元大統領夫妻が参加できること。四日の夜に確定した。

今回の放流式は内外共に大きな試練を受けたように思う。しかし最終的に、ミリタリー機が一機、セスナ五機がレダに飛んできた。午前九時半ごろ、快晴の青空から次々と姿を見せ、無事に到着した。

収穫　今回の来賓において特記すべきことは、フランコ夫妻が参加してくれたこと。田岡大統領顧問も副大統領の緊急会議をおいて参加してくれた。そして農牧省の地方開発課長のスサナ氏も参加してくれ、この人たちとの関係が本当に深くなったことは、今回の大きな収穫だと思う。

話がはずんだ昼食会。レダ産の食材を調理。

野趣あるアサド料理の準備中。

そして今回は環境省、最高裁の要人がこぞって参加してくれた。これにはオーティス氏の尽力がある。オーティス氏は昨年来、環境省に提出する我々のプロジェクトに関する許可申請書類の作成に取り組んでくれ、レダにも何日か滞在して、レダプロジェクトや私たちのよき理解者となった。今回の放流式は彼らに我々のプロジェクトを見せるまたとないチャンスとして、環境省要人、最高裁要人をすべて招待してくれた。最高裁の四人のスタッフは、レダに一泊していった。（四面に続く）

放流式典における来賓のことば（要旨）

★ミゲル・バルガス　学部長・学科長の代理

レダと共同で五年間作業をしてきたことを誇りに思う。ここで孵化に成功し、育ったパクーがまた親魚となって、繁殖していることがとても重要なことである。パクーだけでなく別の魚についても、また別の生き物、例えばカピバラの飼育なども目指して協力していける。

★セルヒオ・クエジャール　オリンポ市長

オリンポ市として、財団に感謝している。この地域では森林の伐採など自然環境を破壊しているのが現状である。今日は天候のため参加できなかった人たちも、レダの人たちに本当に感謝している。五年間連続して毎年稚魚の放流をして、この地域住民の食料の糧となる魚を提供してくれている。

★フレデリコ・フランコ　前大統領

チャコ地方は今まで見捨てられていた。一九一七年のチャコ地方の人口が一万人、一〇〇年後の今、二〇一七年は四万人で、パラグアイの全人口の二%、土地の面積は全国土の65%を占めている。

文師が私たちにこの地域の重要性を教えてくれた。自叙伝にそのことが書かれている。特に魚の養殖の重要性が書かれている。レダの人たちは、誰に知られることもなく、誇大な宣伝をすることもなく、黙々とこの地域で活動し続けてきた。この式典に参加している大統領顧問の田岡先生にお願いしたい。政府の協力が、このレダの人たちには絶対に必要であると。このチャコ地方の発展なしに、パラグアイの発展はないといつも言ってきた。

パラグアイは小国、しかし南米大陸の中心の位置にある。大西洋と太平洋をつなぐ鍵の役目をしている。チャコ地方にメノナイトが入植してきたのは、地域の発展には欠かせない天の助けであった。また、同じようにアルトパラグアイ州にとって、レダの存在は　この地域の発展に欠かせない天の助けである。

★エミリア・P・A・フランコ夫人　上院議員

今回が二回目の訪問である。ここに来るたびに感動を覚える。マザームーンは神様のもとに皆が一家族であることを強調している。そのモデルを、実際にこのレダで見ることができる。宗教・人種・文化の違いを超えて、共に生活している姿、また自然と共に生きている姿を見ることができる。世界には飢餓の問題、公害汚染の問題があるが、レダは私たちに、やればできるのだということを見せてくれている。地域の人たちに仕事を与え、魚の養殖やカピバラの飼育などを通して一つのモデルを見せてくれている。

★田岡功　大統領特別秘書　元パ国在日大使

在日大使の時に、南北米福地開発財団の事を知った。二年前、韓国に招待されたとき、鮮鶴平和賞を受賞した学者のことを知った。貧困救済の為に魚の養殖を広めて成功したことを知り、とても感動した。パラグアイでもこうしたプロジェクトが必要だと思った。レダで作っている魚のチョリソやカマボコは、魚の臭いがしないので食べやすい。パラグアイでも健康の為に肉よりも魚を食べることを奨励している。テログループのEPPの対策に政府は八千万ドルを出費してきたけれど、解決できていない。貧困問題の為である。魚の養殖のようなプロジェクトを進めて、国外にまで輸出できるようにして、外貨を稼げるようにすれば素晴らしい。政府としてもこの財団のプロジェクトを助けて行かないといけないと思う。

★スサナ・バルア　農業牧畜省　地方開発課長

ここに来るといつもエネルギーが充電されるように感じる。ここでは、ために生きるというモットーが実践されている。自分も平和大使として、みんなと力を合わせて、神様がくださった自然を守っていこうと思う。

Nguen神父が祝祷する。

韓総裁のメッセージを代読。

（二面より続く）バイア・ネグラのNguen神父はバスで来ることになっていたのだが、雨でバスが走れなくなり、ボートで迎えに行った。

放流式典　午前10時30分、国歌斉唱、Nguen神父による祝祷、韓鶴子総裁からのメッセージ(Rev. Shinが代読し、スペイン語のプリントを全員に配布)から始まった。このメッセージを通して私たちの運動のディメンションや環境問題に対する真剣な取り組みを理解してもらえたと思う。続いて中田実レダ基地所長および来賓の挨拶。多くのスピーカーが私たちを良く知る人たち（フランコ前大統領、エミリアーパトリシア同夫人、田岡大統領顧問、オリンポ市長、スサナ農牧省代表、バウサ環境庁水産課長など）で、会場はとても和やかな雰囲気だった。オリンポ市長は「アルトパラグアイ州は魅力あるものは何もなく、誰も寄り付かないところ。しかしレダの存在が中央政府からの人を引きつけ、国内ばかりでなく外国からも人が訪れるところとなっていることに感謝している」と語った。さらに中田欣宏理事長、ゲーリング米国代表、国連開発監査評価委員の廣野良吉先生のメッセージ代読と続いた。最後にマグノ教授が今回の放流式の意義について話し、式典は12時過ぎ終了した。皆のスピーチがレダのプロジェクトを心から称え、支え、今後も共にやって行きたいというものだった。

フランコ夫妻と佐野氏。

放流　その後、全員が川岸まで歩き、一人ずつ稚魚を放流した。今回は稚魚と共に１０００匹のＩＤタグを埋め込んだ成魚も放流した。これはパクーの生態研究のためである。後にどこかで捕えられると、場所や体重などのデータが蓄積されて行く。

孵化場と開発室見学　その後、パクーの孵化場と小橋さんの食品開発室を見学した。小橋さんが創出した様々な製品を、多大な関心を持って試食し、舌鼓をうっていた。

昼食会　そして、食堂に入り歓談しながら牛、羊、ヤギ肉のアサド（焼肉）、パクーの様々な料理、豚肉料理など、レダ産の食材で作った料理を皆喜んで食べていた。今回は中井夫人が責任を持って食堂を切り盛りしてくれた。最後に日本からのお土産を主要な来賓に配り、記念のTシャツ、キーホルダーなどを参加者全員に贈呈した。

皆で記念のTシャツを着て。

　そして最後はフランコ元大統領夫妻、国会議員、オリンポ市長ら全員が、文先生ご夫妻の写真の入ったTシャツを着て、記念撮影した。この人々は、文先生ご夫妻を誇りに思っているのである。そしてパクーや小橋さんが作った製品の入った箱を、お土産として主要な人にプレゼントした。皆さん、口々に感謝の意を表しながら、喜んで飛行機に乗り込んでいった。

放流式が成功して、笑顔がいっぱい。

感謝　今回は予定していたことの多くがその通りに行かず、非常に厳しい試練に遭いましたが、終わってみれば恵みの深い、将来に大きな希望が広がる放流式でした。日本や米国で、この日のために様々に支援してくださった皆様に、心より感謝いたします。（佐野記）

ありがとう。また来ます。

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口３－１１－１５
岩崎ビル４Ｆ
電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）
記号10280　番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com
ホームページ：asd-nsa.com

会員種別

♠会員一口1000円／月
♠特別会員一口１万円／月
♠法人会員一口１万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座　ゆうちょ銀行
00290-5-113072
加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。